

リスクガバナンスの失敗学 —誰が「安全」を確保するのか—

岸本充生(欠席コメント)

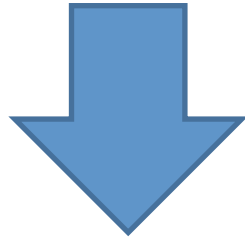
FoRAM座長

(独)産業技術総合研究所安全科学研究部門

ポスト3.11で明らかになった「失敗」

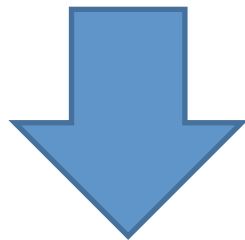
「専門家」の言ってることもバラバラで、何を
もって安全とみなせばいいのか分からない

なぜ？



専門家と一般市民ともに持っていた、「安全」が
客観的に定義できる、という幻想が崩壊したため

現実には？



安全とは社会的合意に基づく約束事

↳ 受け入れられないリスクがないこと

↳ そのレベルをどれくらいにするか
(費用面、倫理面、などの要素を考慮)

↳ 平時に決めておく必要がある。
そのためのルールは「**規制科学**」
社会的合意を担保するものは
「**手続き的正当性**」

約束事

交通安全→年間死者数3000人
河川堤防→200年に1回の洪水
発がん物質→生涯10万人に1人
人工衛星落下→人的被害1万分の1
地震、津波→？
放射線→？

専門家の失敗:「科学」だけでは安全か危険か言えない

分からない場合は
「分からない」と言う
のが科学者の本分

不確実なもとで、意
思決定を迫られる！

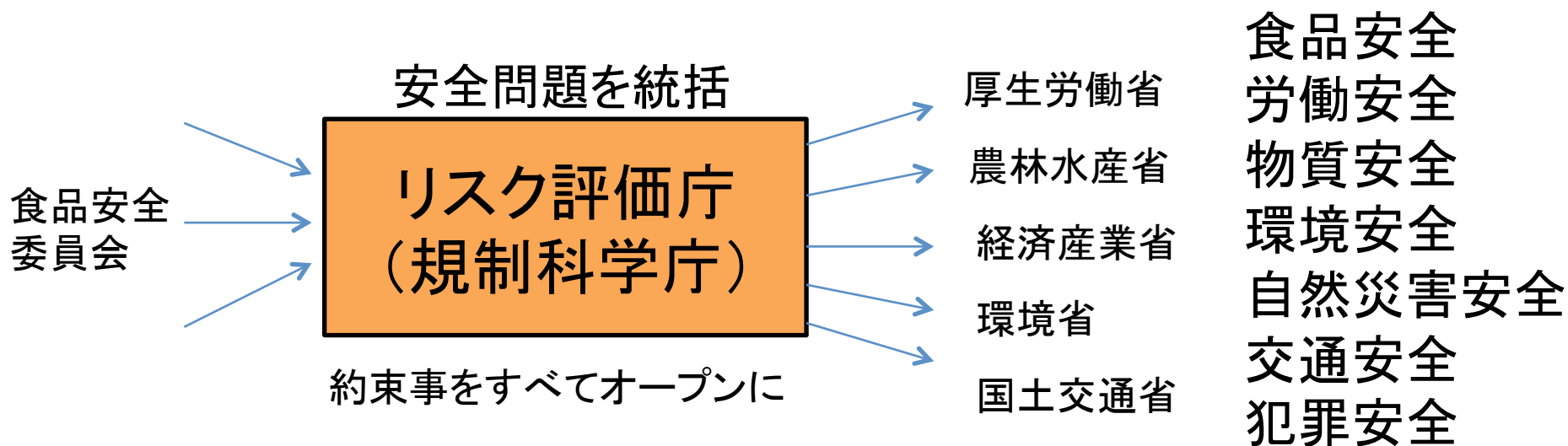


不確実な事象に直面した場合、規制科学なくして「安全」か「危険」を判断することは不可能！

そしてこれから重要になる安全問題 (emerging risks) のほとんどは不確実なもの。

提案1「リスク評価庁(規制科学庁)」

「専門家の失敗」を克服するために、



- ・国民向けのリスクの優先順位の策定
- ・安全とみなすリスクレベルの設定
- ・毎年「リスク白書」の発行
- ・リスク評価人材の教育(社会人再教育)

提案2「根拠を尋ねようキャンペーン」

- ちゃんと根拠を専門家に尋ねてこなかった一般市民の側にも責任がある。
- 基準値、政策などの意思決定の根拠を専門家や政府に納得できるまで、徹底的に尋ねよう。
- そうすると当然、そこに置かれた暗黙の仮定や影響評価、が明らかになる。それが規制科学。



英国のAsk for Evidence
キャンペーン